

思いつくままの地学用中国語

岸本文男(地質相談所)

Fumio KISHIMOTO

はじめに

最近 は 中国語で書かれた地球科学関係の論文や本が多く目にとまるようになった。今は 中国書籍専門の本屋さんに限らず 洋書を扱っている本さんのなかにも 頼めば取り寄せてくれるところがあるような時代になった。筆者は3種類の誌紙を入手し その中から新しい地質情報と科学情報を仕入れている。それはいざれも 国家公務員でも求められる程度の比較的廉価な出版物である。

ところが 地質調査所図書室や筑波大学中央図書館あるいは地学文献センターでの様子を見る限り 地球科学関係の中国語の文献はそれほど読まれていない。その一方 翻訳業界の動向によると 地球科学分野の翻訳の注文では 中国語の和訳が増えてきているとのことである。ということは 中語国使用の論文 すなわち中国の地質科学研究者が書いた論文がそれほど読まれないのは 内容に主な原因があるのではなく 言葉に主な原因があるように思われる。

そこで 出過ぎではあるけれど 文献の有効な利用に役立てば幸いと 筆を執った次第である。



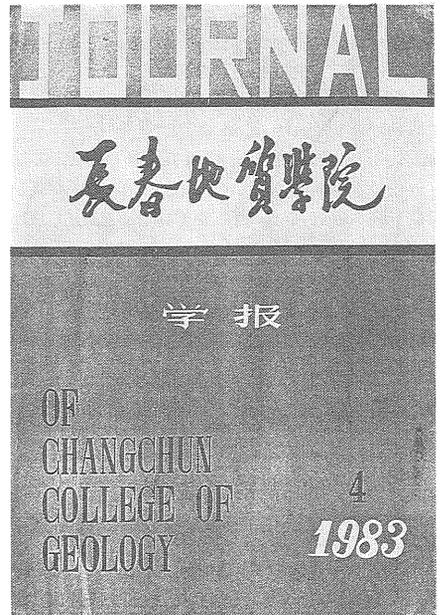
第1図 中国が発行している地質科学関係の専門誌の数々。「砾床地質」誌を除けば いずれも個人で購入することができるし 「砾床地質」誌もそのうち輸出されるようになると思われる。

こういった説明の進め方が合理的なのか 迷うところであるが ここでは思いつくままに進めたいと思う。

出だしとして <長春地質学院学报> 1983年第四期に掲載されている胡倫積の論文「花岗岩的成因与成矿」を拝借する。

繁字と簡字

上記論文の表題 「花岗岩的成因与成矿」の9文字の中に 日本語にはない漢字が三つ入っている。崗・与・矿の3文字がそうである。崗は崗 与は與 矿は礦の略字であり それぞれ日本語の崗 与 鉱に相当している。この略字のことを 中国語では簡体字または簡字と呼び もとの字を繁体字または繁字という。



第2図 長春地質学院学报の表紙。この学院は単科大学で 旧奉天の日本の関東軍憲兵隊司令部の建物を使っている。この学报の題字のまた見事なる筆跡。内容の特徴は 調査研究の対象地域が東北3省に限られていないこと 率直な記載が目につくことであろう。

現在 目にする論文や新聞などの公式の出版物では徹底して簡字が使われ 繁字にお目にかかることはまず無い。日本人にとってみると 中国の簡字にはほとんど馴染みがないから 一般的には繁字にもどして読み取ることになる。簡体字から繁体字を知るには 簡字索引がついているか 簡字と繁字が同列併記してある中日辞典(以下 辞書と呼ぶ)を使えばよい。辞書を購入する際 気をつけないと 簡字索引も無く 簡字・繁字併記もされていないものを買って帰り あとで後悔することになる。簡字を記憶しようと 躍起になるのはどうかと思う。それは 繁字を求めて辞書を何回か開いているうちに 自然と覚えてしまうものだからである。以前に見た簡字の繁体字を忘れて また辞書をひもとく場面もあるだろう。そんなことは お構いなし。むしろ 当て推量で繁体字を想像し 当てがはずれて 辞書を開いたまま途方にくれる方が困る。最近 簡字繁字辞書が出版されたと聞く。これを入手して使用すれば 簡字から繁字が楽に引き出せるはずである。

辞書をひく

相手が自分の専門とする分野の論文である場合 辞書をスムーズに引けるようになることが論文読破の鍵である。辞書を引くには 幾つかの方法がある。

その一つは 部首(「へん」)から入り 「つくり」の画数で目指す漢字を探し出すという方法で 大概の一つの漢字(単漢字)の意味はこれで把握できる。辞書によっては 簡字を繁字に戻してから部首に取り掛からなくてはならないので できることなら 簡字のまま引くことのできる辞書を使いたいものである。そうすれば手間が省けるし 同時に繁字もわかる。ただし 「へん」が消され さらに「つくり」も簡略化された形の簡字に対しては かえって難しい場合もある。

第二の方法は 総画数から目的の漢字を引き出すことである。この場合 漢字の書き順を正しく理解していないと もたつくおそれがなくもない。辞書の中には簡体字を無視して繁体字の総画数索引しか付していないものもあるので これも注意のこと。なお 総画数から引こうにも引けない辞書があるので これも辞書の購入に当たっての注意事項の一つであろう。一般に総画数で引くときには 勘定した画数にこだわらず 土1画の範囲で目的の漢字を探す余裕が欲しい。

第三は 日本語式の音読みで引く方法である。この方法を用いるには なんとでも漢字の音読みがわかっていることが必要だし もちろん日本語式音読みの索引が付いている辞書でなくてはならない。大漢和辞典で

簡体字表

配列は総画数による。同画数のものは第一画の筆形の「丶」「丨」「ノ」の順によって配列した。

2 画	专 (專)	东 (東)	杆 (樅)
[-]	功 (勛)	才 (才)	灯 (燈)
厂 (廠)	区 (區)	圣 (聖)	[-]
了 (了)	开 (開)	辽 (遼)	夹 (夾)
[1]	历 (曆・歷)	边 (邊)	刘 (劉)
ト (簡)	斤 (斤)	[1]	尧 (堯)
[ノ]	书 (書)	卢 (盧)	动 (動)
儿 (兒)	双 (雙)	叶 (葉)	扩 (擴)
儿 (幾)	无 (無)	号 (號)	扫 (掃)
3 画	艺 (藝)	叹 (嘆)	执 (執)
[-]	队 (隊)	只 (祇・隻)	执 (執)
广 (廣)	邓 (鄧)	电 (電)	协 (協)
义 (義)	凤 (鳳)	业 (業)	亚 (亞)
[-]	瓜 (瓜)	旧 (舊)	叔 (叔)
飞 (飛)	丰 (豐)	归 (歸)	机 (機)
干 (幹・乾)	巾 (巾)	帅 (帥)	朴 (樸)
卫 (衛)	仆 (僕)	出 (出)	半 (半)
才 (才)	从 (從)	[ノ]	过 (過)
亏 (虧)	仓 (倉・倉)	丛 (叢)	迈 (邁)
习 (習)	仅 (僅)	冬 (冬)	达 (達)
万 (萬)	气 (氣)	秀 (秀)	夸 (誇)
与 (與)	长 (長)	处 (處)	夺 (奪)
[ノ]	5 画	尔 (爾)	压 (壓)
个 (個)	[-]	乐 (樂)	仄 (仄)
千 (千)	汇 (匯・彙)	台 (臺・檯)	买 (買)
乡 (鄉)	汉 (漢)	台 (臺・檯)	戏 (戲)
亿 (億)	头 (頭)	发 (發・髮)	欢 (歡)
么 (麼)	宁 (寧)	6 画	寻 (尋)
4 画	兰 (蘭)	[-]	导 (導)
[-]	礼 (禮)	兴 (興)	尽 (盡・儘)
亿 (億)	写 (寫)	关 (關)	孙 (孫)
斗 (鬥)	[-]	冲 (衝)	阳 (陽)
方 (為)	灭 (滅)	壮 (壯)	明 (明)
[-]	击 (擊)	收 (收)	阶 (階)
云 (雲)	节 (節)	产 (產)	[1]
韦 (韋)	扑 (撲)	刘 (劉)	当 (當・當)
办 (辦)	木 (木)	齐 (齊)	吁 (籲)
丑 (醜)	厉 (厲)	庄 (莊)	吓 (嚇)
	龙 (龍)	庆 (慶)	曲 (曲)
		安 (安)	虫 (蟲)
			困 (困・圈)

第3図 中国の簡体字(簡字)の繁体字(繁字)への転換のための索引。このような索引が付いている辞書を使うと便利である。

音を調べてから この索引を追うことがあっても可笑しくない。二度手間と思われるかも知れないが 熟語や慣用句の意味を知るためには このような手間をかけることもあるのである。

第四の方法として 漢字の表音文字(ピン音文字)を用いる方法がある。この方法は 目的とする漢字の表音文字をしっかりと憶えていないと 使えない(さらに四声と呼ばれるイントネーションを憶えていると 言うことなし)。しかし これが使えれば 辞書を引くための時間が短くてすみ 熟語や慣用句が手早く理解でき とくに たとえば 英中鉱物名辞典とか中中地質用語辞典といった専門辞典を引く場合に威力を発揮する。英中鉱物名辞典では 中国で使っている鉱物名の頭文字の漢字の表音文

地 質 辞 典

DIZHI CIDIAN

(一)

普通地質 構造地質分冊 上册

第10図

中国が出版し始めた「地質辞典」シリーズ6巻中の第1巻——「普通地質 構造地質分冊(上)」すでに 全巻の出版が完了している。これは 使いでのある辞書である。これも ビン音による索引しか付いていない。

地 質 学 出 版 社

とは言っても 同文異義の場合よりも同文同義の場合の方がはるかに多いのであるから 同文異義に注意することは必要であるが 辞書をしっかりと引きさえすれば 惑わされることはない。繁体字・簡体字と日本の漢字との形態上の関係さえわかれば 辞書不用の地質科学用語は沢山ある。たとえば 優地向斜 安山岩 玄武岩 輝石 角閃石 石英 構造運動 風化作用 双晶 同形火山 地震 鉱床などは同文同義の良い例である。一方 石榴石(日本では ざくろ石) 輝長岩(はんれい岩) 地台(卓状地) 地槽(地向斜) 元古代(原生代) 熱液(熱水) 岩基(底盤) 板塊構造(プレートテクトニクス) 磨拉石(モラッセ) 蛇緑岩(オフィオライト) などなど 中国専用の地質学上の言葉に行き当たったときは 次章で説明する方法のどれかを使えば良いはずである。

専門用語

さて 辞書を引いて繁字を揃えたとする。すると 前述の例題の表題は 「花崗岩の成因與成礦」になる。これを日本の漢字に替えると 「花崗岩の成因与成鉱」になり 日本語に直訳すると 「花崗岩の成因と成鉱」となる。「的」はその直前に短い名詞しかなければ 「……の」でよい。「与」は and と with の意味を備えているから 「和」の and と同列にはおけない。「和」は単純に「——と——」でよいが 「与」はこの場合「——の成因およびそれと関係ある成鉱」と訳せばほぼ完璧といえる言葉である。それにしても まだ完全ではない。「成鉱」という言葉が日本の地質用語にはないからだ。このような場合の解決策は

汉语拼音词目录引 347

凝灰质砂岩179
凝灰质页岩179
凝块石192
nong	
浓集克拉克值250
浓集系数250

pian	
偏光287
偏光玻璃288
偏光棱镜288
偏光色302
偏光图304
偏光显微镜288
偏心率192
片沸石85
片麻岩225
片麻状构造222
片岩223
片状构造222
漂白土185

O

ou	
欧白101
偶极矩252
偶数规则248

P

pa	
爬升波痕原理168
pao	
泡磁矿97
pel	
培长石82
配位场理论256
配位多面体253
配位键254
配位数253
pen	
喷出岩121
peng	
膨润土185
硼砂87
硼化石86
硼镁铁矿86
pi	
批工113
皮115
铍法273
铍尖晶石56

Q	
qi	
七彩闪光115
起偏角300
气化热液变质作用	212
气孔构造129
气体分析器314
气体色谱314
qian	
牵引流154
牵引载荷154
牵引作用153
千枚岩223
千枚状构造222
千糜岩231
千尼尔207
铅丹53
铅矾92
铅黄53
前进变质作用212
前三角洲相206
浅成岩120
浅蓝玉石104
浅粒岩226
浅埋作用158
浅色矿物136
浅色岩137
嵌晶胶结165
嵌晶状结构132
錆色36
qiang	
蔷薇辉石73
蔷薇榴石105
蔷薇石英54
羟硅铍石62
羟磷灰石89

第11図 同じく「地質辞典」シリーズ6巻中の第2巻——「鉱物岩石 地球化学分冊」の索引。ビン音索引であることが判る。

- 1) 中国語→日本語 の地質用語辞典を調べる
 - 2) 中国語→日本語以外の外国語 の地質用語辞典を調べ その外国語を日本語に翻訳する
 - 3) 「成鉱」の日本語訳を想定して 日本語→中国語 の地質用語辞典でその正しさを確認する
 - 4) 「成鉱」の外国語訳を想定して 当該外国語→中国語 の地質用語辞典でその正しさを確認する
 - 5) 一般中日辞典で「成」と「鉱」を引き出し 文意にふさわしい日本語を組み立てる
 - 6) 中国語の地質用語に詳しい人に聞く
- といったところである。この「成鉱」の場合 1)か2)の方法でいくのにピッタリの辞書がない。辞書そのものがないのではなく 「成鉱」という用語が載っている 1)および2)の辞書が見当たらないのである。やむなく

4)の方法を使い、英中地学用語辞典を使い「成鉱」が mineralization か metallogeny であることを知る。 mineralization (鉱化作用) や metallogeny (鉱床成因論) 以外の訳語には目もくれないとは言えない。例題の論文では、両者とも文意に合わないのである。論文の内容上は、むしろ単純に「鉱床」とした方が良いと思われる。どんな場合でも辞書に書かれている言葉を守らなくてはならないと決めることはやめよう。ときには metallogeny を「鉱床の分布」あるいは「鉱床分布法則」とした方が適当な場合もあるし、メタロジェニーとカタカナで書いた方がピッタリの論文もある。ただしこれは発表を目的にして翻訳をするときの話で、自分だけが論文の内容を理解できれば良いという場合にはもちろん、これほど細かく考える必要はない。このようにして例題論文の表題は「花崗岩の成因と鉱床」に決まったわけである。

【粒級】 grain size grade, 大于0.01毫米。对于粒级, 目前流行的有三种划分标准: ①十进位标准; ②φ标准(又称伍德登-温德华标准); ③类似十进位标准。比较如下:

十进位标准		伍德登-温德华标准(φ标准)		类似十进位标准		
粒级划分	颗粒直径(毫米)	粒级划分	φ	粒级划分	颗粒直径(毫米)	
砾	巨砾	>1000	巨砾	7-8	巨砾	>1000
	粗砾	1000-100	粗砾	8-6	粗砾	1000-100
	中砾	100-10	中砾	6-3	中砾	100-10
	细砾	10-1	细砾	3-1	细砾	10-2
砂	粗砂	1-0.5	巨砂	1-0	巨砂	2-1
	中砂	0.5-0.25	粗砂	0-1	粗砂	1-0.5
	细砂	0.25-0.1	中砂	1-2	中砂	0.5-0.25
			细砂	2-3	细砂	0.25-0.1
			3-5	微粒砂	0.1-0.05	
粉砂	粗粉砂	0.1-0.05	粉砂	5-9	粗粉砂	0.05-0.01
	细粉砂	0.05-0.01			细粉砂	0.01-0.004
粘土	<0.01	粘土	>9	粘土	<0.004	

【粒度分析】 grainsize analysis; гранулометрический анализ 又称“机械分析”。一种研究碎屑沉积物或碎屑岩中各种粒度的百分含量及粒度分布的方法。对于易解离开的岩石, 通常采用筛析法、沉淀法, 对于固结得较紧密不易解离的岩石, 常采用薄片法, 对粗大的砾石则采用直接测量法。

【机械分析】 mechanical analysis; Механический анализ 即“粒度分析”。

【沉降公式】 settling velocity formula; формула скорости осаждения 计算颗粒在水中沉降速

$$V = Kgr^2 \frac{d_1 - d_2}{\mu}$$

度的一些经验公式。决定颗粒在水中沉降的因素有颗粒大小、比重、形状及水介质的粘度、温度、流动情况等。因而, 沉降公式是近似的公式。最常用的沉降公式是斯托克公式。

【斯托克公式】 Stokes formula; формула Стокса 一种计算球状颗粒在液体中的沉降速度的经验公式, 此公式是英国学者斯托克所提出的。其公式如下:

第12图 「地質辞典」シリーズ6巻中の第2巻——「鉱物 岩石地球化学分冊」の内容の例。中国の堆積岩の粒度区分表が掲げられている。これは 参考になる。

を繰れば「一直」は「まっすぐ」であることがわかる。そして筆者が「ただこれ——たりとせず」と読んだ原文の「不但——」は辞書には「——だけでなく」と書かれている。これは英語でいう not only に当る。また「——に与う」と読んだ「与」はすでに説明した通りである。そうすると上記の文章は

「花崗岩の成因問題こそ、まさに、地質学の中で最も重要な課題の一つである。その課題は、岩石学の基本問題であるだけでなく、同時に地質構造、鉱床の成因、さらに地層学とも密接な繋がりを持っている」

と言う現代日本語訳になるだろう。

この日本語訳は、中国語の文章を漢文読みするという

漢文読み(漢文の訓読み)

例題の本文に入ると まづ 次のような文章にぶつか

花崗岩的成因問題一查是地质学中最主要的课题之一。它不但是岩石学的基本問題, 同时也与地质构造, 矿床成因以及地层学有密切联系。」

辞書をうまく使って これを日本漢字に直せば

「花崗岩的成因問題一直是地質学中最主要的課題之一。他不但是岩石学的基本問題, 同時也与地質構造, 鉱床成因以及地層学有密接联系。」

となる。さてこれをどのようにして読みこなすか? 簡便な方法は 漢文読みを試みることである。その昔「月落ち 鳥啼いて 霜天に満つ, 江風漁火愁眠に對す, 姑蘇城外の寒山寺, 夜半の鐘声客船に到る」などと読んだあの漢文読みである。

では 上記の文を漢文読みしてみよう。

「花崗岩の成因問題, 一直して, これ地質学中の最主要課題の一なり。それぞ, ただこれ岩石学の基本問題たりとせず, 時を同じうして, 地質構造, 鉱床成因, 以てさらに地層学に与う密接なる連係を有するなり」

このように読めば 難解な言葉は「一直」だけと言えそうである。すでに述べた熟語の引き方に従って辞書

花崗岩の成因と成矿

胡 伦 积

花崗岩の成因問題一直是地質学中最主要的課題之一。它不但是岩石学的基本問題，同时也与地質构造，矿床成因以及地層学有密切联系。目前，人們认为地壳的硅铝层主要由花崗质岩石組成，花崗岩类是大陆地壳上部特征性的岩石。据统计，花崗岩分布面积比其它岩类大20倍，许多矿产的形成和分布如W、Sn、Bi、Li、Be、Nb、Ta、Rb、Cs等都与花崗岩密切相关。而花崗岩中85%是属于前寒武纪产物。从大陆地壳的剖面来看，除表层沉积外，上陆壳的平均成分相当于花崗閃长岩，据估算下陆壳中酸性、中性麻粒岩和紫苏花崗岩占55%，基性麻粒岩和榴輝岩约占40%，超镁铁岩约5%（据den Fes 1965）。

花崗岩的岩石类型、产状、规模，它们与围岩的关系、所处的地質构造位置、与矿床的成因关系等，都不象以往认识的那么简单。现在看来它们形成的地質背景，形成方式和演化过程是十分复杂和多种多样的。研究花崗岩的成因，对于研究区域地質构造和发展历史，对于成岩理论、成矿理论都具有特殊而重要的意义。研究花崗岩成因，涉及地球科学的广泛领域，如地球的生成及演化，岩浆起源及演化，变质作用与岩浆作用的关系，铝硅层和硅镁层的相互关系及演化，成岩作用的物理化学条件等一系列基本问题都有不可分的关系，花崗岩问题的复杂性，导致出现一些不同观点，也是自然的。

早在60年代初，我国已故矿床学家谢家荣教授就探讨了花崗岩的形成問題。他提出我国不同构造单元有明显不同的含矿性，每一构造旋回发育的花崗岩有不同特征的成矿作用及矿床类型。我国矿床学家徐克勤教授根据多年来对华南花崗岩和成矿的研究，将花崗岩类划分三大成因系列：即陆壳改造型，过渡性地壳同熔型，幔源型。我国岩石学者董中保教授将花崗质岩石分为两大类：地壳重熔花崗岩，地幔分异花崗岩。由于我国近年来地球化学领域的重大进展，通过Sr⁸⁷/Sr⁸⁶、Pb²⁰⁸/Pb²⁰⁴、Nd¹⁴⁷/Nd¹⁴⁴等比值研究，对花崗岩类物质来源有了进一步的认识。看来，花崗岩类划分为地壳源，幔源和混合源三类是适当的。我国南方出現的主要是地壳源花崗岩类，和钨、锡、钨、钨、钨、钨、钨、钨有关，斑岩型矿床及爆破角砾岩筒矿床主要与幔源型花崗岩类岩石有关，而南方一些边缘断裂带，如长江中下游，则主要是混合源型花崗岩类，与铁、铜矿化有关。

一、花崗岩的成因

关于花崗岩的成因，从水火之争开始，各家争论至今未息。十九世纪初叶，雷德(H第13图) 这篇文章の中で引用した論文の第1ページ。ただじーと眺めているだけで何となく内容が判るような気がするはず。それが中国文の良さ？である。モンゴル語やビルマ語をいくらじーと見つめていても何もイメージが浮かんでこないのに比べればよほどましだろう。

手段を通じて得られた訳であるからもし間違った漢文読みをすると意味を取り違え理解を誤ることになってしまう。誤った漢文読みをしてしまう可能性は文献を読む人の力量によって大きくもなるし小さくもなるだろうが中国文そのものの中にもその可能性を大きくする要素が潜んでいると思われる。

たとえば 禅寺の山門の前に掲げられている次のような一文を 皆さんはどのような漢文読みをされるだろうか？

「不許葷酒入山門」

これは「葷酒 山門に入るを許さず」(クンシュサンモンニイルユルサズ) と読むべきものである。なまぐさ料理と酒を寺に持ち込んではいならない と言う意味である。しかし 生まれれば「葷を許さず 酒 山門に入る」(クンユルサズ サケサンモンニハイル) と読めなくもない。なまぐさ料理は許されないが 酒を寺に持込む

のはかまわない となり 仏道に反して良いということになる。このように読みたい人がいるかも知れないが。

これは 中国語が句読点をそれほど重視していないために起る混乱で その混乱の責任は中国語自身が負わねばならない事柄であろう。もし「不許葷，酒入山門」と書けば 読み方は前者 「不許葷，酒入山門」なら その読み方は後者しか無いはずである。それでも最近句読点に注意が払われるようになってきたが 古文書は酷いもので たとえば “魏志”の卷三十 “東夷伝” 倭人の項 2,000 余文字 (いわゆる魏志倭人伝) にはまるで句読点がなく おかげで未だにその読み方が議論の対象になり 「洛陽の紙価を高からしめ」ている。

この中国語が備えている落とし穴にはまらないようにするには とくに古文書の場合 文章の成立の背景とか文章そのものの流れとか 専門用語の正確な意味 と言ったものに注意を怠らないことが絶対に必要であり もう一つ 慣れが正解誕生を助けてくれるはずである。

外国の地名・人名

中国語には 「カタカナ」もなければ「ひらかな」もない。だから 日本語のように いわゆる横文字の地名や人名を「カタカナ」で著すことは不可能である。それならいっそのこと 横文字のまま記述すれば良さそうなものを そのようにする例は多くない。残された方法はただ一つ 横文字の地名・人名に漢字が当てられることになる。国名や船名 そして航空機 機器類などの横文字タイプ名も同様である。地質論文の中で漢字を当てて さらに原名の横文字を付記してくれる場面が無くもないが 一般には稀である。使用する漢字は原名の横文字の発音に似た発音のものであるが 発音さえ似ていれば どんな漢字を使っても良いと言うわけではない。地名の場合には 各国々のことばにそれぞれ応じて 第1表に示したような使用規則 といったものがある。この表を使えば 中国と日本以外の国々の少なくとも地名は見当がつくだろう。人名も この使用規則を準用すれば良い。日本語の地名・人名は簡体字に換えられて転記される。有り難いことに 大和仮名書のようにはない。中国漢字にはない日本漢字の場合は 当てはまる中国漢字が使用されている。たとえば日本漢字の「国」は中国漢字にはなく 中国では「国」と書く。ただし 読むときには 中国語の発音になる。たとえば 岸本文男を「キシモトフミオ」とは読んでくれない。「アン ポーン ウオン ナン」と聞こえる。ついでながら 地質調査所の先輩に 高

第1表 英中音訳表

		英 汉 译								
市氏 音 标	市氏 音 标	市氏音标	b	p	d	t	g	k	v	w
		国际音标	b	p	d	t	g	k	v	w
		汉字	布	普	德	特	格	克	夫(弗)	夫(弗)
ā ū ǎ	a: ʌ æ	阿	巴	帕	达	塔	加	卡	瓦	瓦
ē / ǎ	e / ei	埃	贝	佩	德/特/代/戴	盖	凯	韦	涉	
ūr ū ér ā ū	ə: ə	厄	伯	柏	德	特	格	克	弗	沃
ē ē ī ŷ ʻ	i: i(j)	伊	比	皮	迪	蒂	吉	基	维	威
ō ōr ō / ō ō	o o:/ou o əu	奥/欧	博	波	多	托	戈	科	沃	沃
oo oo	u: u	乌	布	普	杜	古	库	武	伍	
ū ū	ju: ju	尤	比尤	皮尤	迪尤	蒂尤	久	丘	维尤	威尤
ī	ai	艾	拜	派	代(戴)	泰	盖	凯	韦	怀
ou	au	奥	包	保	道	陶	高	考	沃	沃
ǎn ǎng ūn	ən ʌn ʌn əp	安	班	潘	丹	坦	甘	坎	万	万
ǎn oun ūng ǒn ǒn ǒng	ɔ:n ʌun ʌj ɔ:n ɔn ɔj	昂	邦	庞	当	唐	冈	康	旺	旺
ǎn ǎng ūn ūn ǎng ǎng ūn ūn	en eŋ ɔ:n ɔn en əp	恩	本	彭	登	滕	根	肯	文	文
ǎn ǎn yún ǎrn	in in iən jən	因	寅	平	丁	廷	金	金	温	温
ǎng	ij	英	寅	平	丁	廷	京	金	温	温
oon oon ǒn	u:n un oun	温	本	蓬	敦	温	贡	昆	文	文
oong	uŋ	翁	邦	蓬	东(东)	通	贡	孔	翁	翁

		音 表																	
市氏 音 标	市氏 音 标	f	z	ts	s	zh	sh	j	ch	h	m	n	l	r	y	gw	kw	hw	
		f	z	ts	s	ʃ	ʃ	ʃ	ʃ	h	m	n	l	r	j	gw	kw	hw	
		夫(弗)	茨	茨	斯(兹)	日	什	季	奇	赫	姆	恩	尔	尔	伊				
法	扎	賡	賡	沙(莎)	賡	賡	哈	马(玛)	纳(娜)	拉	拉	亚(娅)	瓜	夸	华				
賡	译	采	塞		谢	杰	切	赫/黑	梅	内	莱	雷	耶	圭	奎	志			
弗	译	策	莎	热	舍	哲	彻	赫	默	纳(娜)	勒	勒	耶	果	阔	霍			
菲	齐	齐	西(锡)		希	吉	奇	希	米	尼(妮)	利(莉)	里(丽)	伊	圭	奎	惠			
福	佐	措	索	若	肖	乔	乔	霍	莫	诺	洛	罗	约	果	阔	霍			
富	祖	楚	苏	茹	舒	朱	楚	胡	穆	努	卢	鲁	尤	库					
菲尤	久	丘	休		休	久	丘	休	缪	纽	柳	留							
法	宰	蔡	赛		夏	賡	柴	查(查)	迈	奈	莱	精	耶	瓜	伊	夸	怀		
福	藻	曹	绍		绍	焦	乔	豪	毛	瑞	劳	劳	尧	阔					
凡	赞	灿	桑		尚	詹	钱	汉	曼	南(楠)	兰	兰	扬	美	宽	环			
方	藻	仓	桑		尚	章	昌	杭	芒	南(楠)	朗	朗	扬	光	匡	黄			
芬	曾	岑	森		任	申	真(珍)	琴	亨	门	嫩	伦	伦	因	恩	昆			
芬	津	钦	辛		欣	金	钦	欣	明	宁	林(琳)	林(琳)	古	因	昆				
芬	京	青	幸		兴	京	青	兴	明	宁	灵	灵	英	古	英				
丰	尊	聪	孙		顺	准	春	洪	蒙	嫩	伦	伦	云						
丰	宗	聪	松		雄	琼	琼	洪	蒙	农	隆	龙	永						

島清という人が居られた。この人はもちろん 姓が高島で 名が清であるが 中国の人は 高 島清としか受け取らず もっぱら高(カオ)先生と呼ばれていたそうである。

第1表を使用しないで横文字の地名・人名を中国漢字から読み取るには 一つ一つの漢字の表音を一般の中日辞典から引き出して 自己の知識を総動員し それらしい原名を頭に描き それを詳しい横文字表現の地図上で確認し 人名なら文献抄録誌人名索引などで確定する必要がある。中国が発行している外国地名辞典 外国人名辞典を入手・使用することも大きな地名 特別な有名人には効果的だが 小さな地名やまだ売出し中の人の名前は おおむね出していないので 全体としてそれほど役には立たない。最近では中国からの学生や研究員の日本への派遣が頻繁である。その人々に聞くのも 賢明な方法であるが それも万能ではない。

いくつかの地名の例を挙げてみよう。

安第斯：表音で an-di-si は 原名が Andes 日本でい

うアンデスである。このように列挙すると

- 夏威夷：xia-wei-yi Hawaii ハワイ
- 科羅拉多：ke-luo-la-duo Colorado コロラド
- 烏拉爾：wu-la-er Урал ウラル
- 西伯利亞：xi-bo-li-ya Сибирь シベリア
- 聖路易斯：sheng-lu-yi-si St. Louis セントルイス
- 埃特納：ai-te-na Etna エトナ
- 金伯利：jin-bo-li Kimberley キンバレー

では 地質学上の有名な地名を10か所挙げ 当てて戴くことにしよう。()の中はヒントである。正解は次ページに。

- ① 落基(山脈)
- ② 聖海倫斯(火山)
- ③ 費爾菲爾德(鉱床)
- ④ 康沃爾(半島)
- ⑤ 秋明(油田ガス田群)
- ⑥ 克里沃羅格(鉱床群)
- ⑦ 蘇必利爾(湖)
- ⑧ 威特沃特斯蘭德(地方)
- ⑨ 阿爾卑斯(造山)
- ⑩ 斯堪的納維亞(半島)

さらに次ぎの地質学関係の人名10題に対してもどうぞ。

- ① 克来頓（米国人） ② 和愛徳（米国人）
- ③ 泰勒（米国人） ④ 尼格里（スイス人）
- ⑤ 查瓦里茨基（ソ連人） ⑥ 庫茲涅佐夫（ソ連人）
- ⑦ ス米爾諾夫（ソ連人） ⑧ 戈爾（徳）施密特
（スイス人） ⑨ 鮑恩（カナダ人）
- ⑩ 莫霍洛維契奇（ユーゴスラビア人）

外国の横文字の人名をその発音に類似する表音から漢字化する方法は キチンと守られているようであるが地名については必ずしもそうでない。地名を翻訳してその語意を漢字で表したのもも散見される。アイスランド（Iceland）を「氷島」スリーブラザーズ アイランズ（Three Brothers Is.）を「三兄弟群島」オクスフォード（Oxford）を「牛津」といったように、ではまたの10問題。

- ① 復活節島（チリー） ② 中途島（アメリカ）
- ③ 西点（アメリカ） ④ 金角湾（トルコ）
- ⑤ 原子城（アメリカ） ⑥ 八度海峡（インド）
- ⑦ 好望堡（カナダ） ⑧ 大奴湖（カナダ）
- ⑨ 藍嶺（アメリカ） ⑩ 失望群島（ポリネシア）

論文の文章を読んでいて わけのわからない文字列にでくわしたら どう読んでいいのかさっぱりわからないと匙を投げる前に ひょっとして これは地名ではないか それとも人名かと疑ってみるとよい。地名も人名も漢文読みを受け付けけないのは当然のことなのだから、そこに気付いたら しめたものである。その地名も人名も 論文に係わりのあるもので あらぬことを口走ってはいないはず。鉱物学の論文に好葉塙（かつては聖林）ハリウッドは出てこないだろうし 鉱床学の論文には阿下普爾科アカブルコが出てくることはあるまい。自ずと定まる限界の中で 読み取る地名や人名である。知る喜びの方が探す苦勞にまさることを強調しておきたい。

おわりに

思いつくままの地学用中国語の一節は 以上で終り。いわば インスタント中国語学習のノート 経験による中国語についての雑談となってしまうけれど せっかく書いたのであるから 少しは役に立って欲しいものである。

最近はつくづくと 外国語を日本語にすることの難しさを感じている。口惜しいことであるが ニュアンスのすべてを含めて 外国語の完全な日本語訳は不可能と

思うようになってきた。そのせいであろうか。翻訳に当たっての現在の心境は どれだけ完璧に近づけられるか といったところである。図書室での20年に近い奉仕活動から無事に放免されて 天与の時が得られたのであるから まだ頑張ることができそうな気がする。老兵の一文を期に 中国語に挑む方々の多いことを期待する次第である。

（終り）

例題30問の答

地名

- ① ロッキー（Rocky）
- ② セントヘレンス（St. Helens）
- ③ フェアフィールド（Fairfield）
- ④ コーンウォール（Cornwall）
- ⑤ チュメーニ（Тюмень）
- ⑥ クリボイログ（Кривой Пор）
- ⑦ スーペリオル（Superior）
- ⑧ ウィットウォーターズランド（Witwatersrand）
- ⑨ アルプス（Alps）
- ⑩ スカンジナビア（Scandinavia）

人名

- ① クレイトン（Clayton）
- ② ホワイト（White）
- ③ テイラー（Tayler）
- ④ ニグリ（Niggli）
- ⑤ ザバリツキー（Заварицкий）
- ⑥ クズネツォフ（Кузнецов）
- ⑦ スミルノフ（Смирнов）
- ⑧ ゴールドシュミット（Goldschmidt）
- ⑨ ボーエン（Bowen）
- ⑩ ホモロビッチ（Mohorovicic）

地名2

- ① イースター島 ② ミッドウエー島
- ③ ウェストポイント ④ ハリチ湾
- ⑤ アトミックシティ ⑥ エイトデグリー海峡
- ⑦ フォート グッドホープ
- ⑧ グレートスレーブ湖 ⑨ ブルーリッジ
- ⑩ ジサポイントメント諸島